松川　儒　　**Manabu Matsukawa／ﾋﾟｱﾉ Pf.**

東京芸術大学附属音楽高校を経て、東京芸術大学音楽学部ピアノ科を卒業。
その後、ドイツ・シュトゥットゥガルト国立音楽大学大学院を経て、ドイツ・カールスルーエ国立音楽大学大学院リート科を修了。帰国後は、国内外のみならず客船（国際航路）等でもその活動を広げ、コンサートではソロ・ピアニストとして、又､室内楽・声楽伴奏で貴重なアンサンブル・ピアニストとして、今日まで声楽分野を中心に多数の著名演奏家との共演を続けている。朝日新聞社主催「ヴォルフ歌曲全曲演奏会・全 12 回」に於いてはピアニストとして出色の成果をあげ、今後全シリーズを担当する予定。第 11 回シューマン国際コンクール公式ピアニスト（ドイツ／ツヴィッカウ)。現在、玉川大学芸術学部准教授。

佐久間　大和　　**Yamato Sakuma／ｳﾞｧｲｵﾘﾝ Vl.**

1994 年蓼科高原音楽祭にて音楽祭大賞を受賞。東京芸術大学に入学。在学中、アンサンブル「シエスタ」を結成、バンドリーダーを務める。大学中退後、東京アーティスツ合奏団のコンサートマスターを務める。クラシックのソロ、室内楽を始めタンゴ、現代音楽、JAZZ 等ジャンルを問わない演奏活動を展開。自身の手掛ける「室内楽」シリーズ、ピアソラ等の「ラ・フェスタ」シリーズは好評を呼んでいる。又作曲活動も展開し、上条恒彦氏を主演に迎えた音楽劇「円仁」、宇都宮 NHK 主催によるミュージカル「この世で一番美しい音」等、担当した。現在、アポロ室内合奏団コンサートマスター。

須田　和宏　　**Kazuhiro Suda／指揮 Cond.**

慶応義塾大学法学部法律学科卒業。ワグネル・ソサィエティー男性合唱団 OB。在学中は学生指揮者。指揮法を岡田忠彦氏、北村協一氏に指示。卒業後、樋本英一氏が指揮者を務める IMAS 室内合唱団（現 Ensemble Now）に入団。その一方で、大学合唱団やおかあさんコーラスを中心に、多数の合唱団から依頼を受け合唱編曲者として活躍。これまで出版に女声合唱曲集「夢色スケッチ」（カワイ出版）等がある。現在、ワグネル・ソサィエティーOB 合唱団、コール・フォレスト指揮者。

コール・フォレスト Chor Forest　＆　コーラス・ピアチェーレ Chorus Piacere

指揮者であり編曲者である須田和宏氏の作品を演奏するために 1999 年に結成されたコール・フォレストと、湘南地域で個々に合唱などで活躍している者同士が今回の「チャリティ・コンサート」の主旨に賛同し荒井恵美指導のもと結成されたコーラス・ピアチェーレとの、２団体による合同合唱。

Sop:　池田純江　石黒潤子　犬飼朋子　内田文江　大塚典子　岡坂美紀子　小河原明
金子有子(P)　佐久間いずみ　清水可子　土谷美砂子　中野奈津子(P)　仲山みどり
樋口敬子　藤原美奈子　宮本信子　和田淳子
Alt:　飯田敏子　池内亜貴子　伊東敦子　内野理佐子　大坪友香　神谷寛子　菰方由恵
酒井雅江(P)　中村なお子　深堀暁子　茂木のり子　矢野文子　山下香澄(P)　山田純子
Ten:　内田哲夫(P)　太田和生　鞍田透　古賀知(P)　近藤卓雅　三枝裕　新地光博
高松浩　中野浩一　水野孝一　横溝敏雄
Bass:　相川雅一　阿部進行　新井正昭　石黒孝至　石原純一　樫山節夫　松原伸高(P)
宮本雅夫(P)　福岡照夫　　（P…パートリーダー）

練習ピアニスト: 田中久美、荒木さやか　　**制作：** 宮澤典子、和田健美
チラシデザイン：出射茂

～未来につづく子どもたちのために～

チャリティ コンサート

EMI ARAI Charity Concert Vol. Ⅴ

共 演

Ten.：**松岡 重親**　Vl.：**佐久間 大和**　Pf.：**松川 儒**
合唱：ｺｰﾙ･ﾌｫﾚｽﾄ　ｺｰﾗｽ･ﾋﾟｱﾁｪｰﾚ
Cond.：**須田 和宏**

2007 年　4 月 21 日（土）14:00 開演

逗子文化プラザなぎさホール

≪後援≫ドイツ連邦共和国大使館／湘南日独協会／神奈川県教育委員会
逗子市教育委員会／鎌倉市教育委員会／鎌倉音楽クラブ／鎌倉ケーブルテレビ
≪主催≫荒井恵美 チャリティ・コンサート実行委員会

「未来につづく子どもたちのために・荒井恵美チャリティ・コンサート」が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。
1999年の第１回開催以来、今回で５回目となるこのチャリティ・コンサートは、世界各地で戦争の被害者となった子供たちを保護し、祖国に帰す活動を行っている非営利団体「ドイツ国際平和村」への寄付を目的に開催されているものです。
こうした国際的なボランタリー活動を支援する演奏会が、ここ神奈川で開催されますことは、地域からの国際交流・協力を推進している本県にとりまして、大変有意義なことと思います。
また、今回の舞台には、この演奏会の趣旨に賛同された多くの方々が合唱団として参加されています。子供たちの未来の幸せと人類の平和に対する皆様の思いが、素晴らしい音楽と歌声にのって、全国へ、そして世界中に広がっていくことを願っています。
最後に、荒井恵美さんをはじめ、開催にご尽力された関係の皆様に深く敬意を表しますとともに、本日のコンサートの成功を心からお祈りいたします。

神奈川県知事　　松沢 成文

「チャリティ・コンサートＶｏｌ．Ｖ」のご開催を心からお喜び申し上げます。荒井恵美様によるチャリティ・コンサート「～未来につづく子どもたちのために～」が、多くの方々のご賛同のもと、このたび５回目を迎えられました事は、大変素晴らしい事でございます。
子どもは世界の宝です。未来を担う子どもたちが笑顔で元気に暮らせる社会を築くことが、私たち大人に課せられた使命でございます。このコンサートをはじめとしたチャリティ活動により、子どもたちの素晴らしい未来が開けますよう、心から願っております。
鎌倉市は、「子どもたちが元気に育つ、美しい鎌倉」を行政目標に掲げ、これからもまちづくりに邁進してまいる所存です。
私事でございますが、かつて北鎌倉女子学園のＰＴＡである、はるひ会の会長を務めさせていただきました。北鎌倉女子学園ご出身の荒井様のご活躍は、私といたしましても誠に栄誉に存じます。
結びに、本日のコンサートのご盛会と、荒井恵美様のますますのご活躍を祈念し、お祝いのことばといたします。

鎌倉市長　　石渡 徳一

華麗なるポロネーズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ヴィエニアフスキ
19 世紀後半にロシアで活躍したポーランド出身のヴァイオリニスト。母国ポーランドの民族舞曲であるポロネーズによる、難技巧の限りを尽くした絢爛たる小品である。

乾杯の歌（歌劇「椿姫」より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ヴェルディ
『椿姫』はヴェルディ中期の傑作で、初演は 1853 年。舞台は 1850 年頃のパリ。男たちの注目を一身に集める高級娼婦ヴィオレッタの館。自らが主催する夜会の大勢の客が集まっている。その中に、ヴィオレッタの想いを寄せる青年、アルフレードがいた。華やかな夜会の場面で、はかない人生を謳歌しようと歌われるのが、この「乾杯の歌」である。

Cast Profile

荒井 恵美　　Emi Arai／ソプラノ Sop.
北鎌倉女子学園音楽科、東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。二期会オペラスタジオ研究所修了。1990,'91 年ドイツ留学。E・ウェルバ、E・ヘフリガー、D・ハーパー、E・ヒレマンの各氏に師事。'92 年草津国際音楽フェスティバルに助演。' 93 年『E・ヘフリガー／クリスマスコンサート』(カザルスホール)等に助演。同年、ＮＨＫ洋楽オーディション合格。友愛ドイツ歌曲コンクール入選。第５回日本声楽コンクール第 1 位、並びに田中路子賞受賞。副賞により翌年再び渡欧、E・ヘフリガー、I・ゲージ氏の元などで研鑽を積む。'95 年第 6 回日本モーツァルトコンクール第 3 位。その後、今井信子音楽監督の『インターナショナル･ヒンデミット･フェスティバル』により本格的デビュー。以降数多くの舞台で日本歌曲、ドイツ歌曲などを中心に主にコンサート歌手として古典から現代に至るまで広く活躍している。オペラにおいては『カルメン』（メルセデス)、『魔笛』（ダーメ)、『コシ・ファン・トゥッテ』(ドラベラ)等を演ずる。宗教曲においてはヘンデル『メサイア』、モーツァルト『レクイエム』、『ハ短調ミサ』、ベートーベン『ハ長調ミサ』、グノー『戴冠ミサ』、フォーレ『レクイエム』等のソリストを務める。初ソロ・リサイタルとしては、1998 年リーダーアーベント『五月の夜に』を開催。以降 ' 99 年『日本歌曲の夕べ』、2000 年『ウィーンとイタリアの風』、2002 年『ドイツ歌曲の夕べ』、2006 年『夏の夜の夢』と重ねる。
また、ソロ活動の傍ら、1999 年、ライフワークとして～未来につづく子ども達のために～という主旨に基づき、横浜みなとみらいホールにて『第１回 クリスマス・チャリティ・コンサート～ドイツ国際平和村におくる～』を開催。今回、その第 5 回目を迎える。
現在、二期会、横浜シティオペラ、鎌倉音楽クラブ、各会員。

松岡　重親　　Shigechika Matsuoka／テノール Ten.
京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了。二期会オペラスタジオマスタークラス修了。ポーランド国立クコウ・フィル日本公演、L・シュポワ作曲『ファウスト』ヴァーグナー役で出演、『コシ・ファン・トゥッテ』でデビューの後『ドン･ジョバンニ』『椿姫』『アルバート・ヘリング』他に出演。本年 11 月にはオルフ作曲『賢い女』に出演予定。『第九』、『大地の歌』、モーツァルト『レクイエム』、ヴェルディ『レクイエム』他、京都市交響楽団、九州交響楽団、大阪シンフォニカー交響楽団他と共演。日欧文化協会フレッシュコンサート声楽部門優秀賞、第 15 回京都芸術祭京都市長賞受賞。現在、日本演奏連盟会員、ニューオペラシアター神戸理事、京都大学グリークラブ、ヴォイストレーナー。

Program Note

たんぽぽ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・三好達治作詞・中田喜直作曲
「たんぽぽ」という言葉自体のもつ軽快なリズムにのせ、春の息吹をもたらす花として親愛の情を持ってたんぽぽに歌いかける。後半には、「その春に、私はいったい何度めぐり逢える命なのだろう」と嘆きを流れの中にしのばせている。

からたちの花・・・・・・・・・・・・・・・・・・・北原白秋作詞・山田耕筰作曲
終助詞の[よ]を脚韻にし、詩語に高めた最初の作品として注目された。耕筰はこの詩の抑揚に忠実にしかも感情をこめて話しかけるような自然の流れのメロディをつけた傑作。

悲しくなったときは・・・・・・・・・・・・・・・・寺山修司作詞・中田喜直作曲
寺山修司の父は 1941 年、寺山が 6 歳の時に出征し、その後戦地であったインドネシアで病死している。「おお、海よ、大きな肩と広い胸よ」とあるように、この詩においては海は母なる海ではなく父を指している。日々の暮らしにどんな悲しみがあろうとも海を目の前にした時に存在＝「生」を、父から授かった「生」を、揺るぎないものと確信でき、また同時に何も語らない海の深さ＝死んでいった父の悲しみ、父への思慕が錯綜している。

さとうきび畑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・寺島尚彦作詞・作曲
「私が初めて沖縄を訪れた昭和 39 年のことです。南の島の光と景に心踊る思いでしたが，“このさとうきび畑の土の中には、戦没者の遺骨がまだ埋もれたままになっています”と聞いた瞬間，美しく広がっていた沖縄の青い空はモノクロームに一変しました。頭越しに吹き抜ける風の音だけが耳を打ち，私は立ちすくんでしまったのです。」（「季刊沖縄」より　語り・寺島尚彦）

死んだ男の残したものは・・・・・・・・・・・・・・谷川俊太郎作詞・武満徹作曲
昭和 35 年安保闘争の時、武満のところへ谷川が詩を持って行き、市民集会のためにと曲を頼み一夜のうちに出来上がった秀作。

行け、我が思いよ、金色の翼にのって（歌劇「ナブッコ」より）・・・・・ヴェルディ
『ナブッコ』は、ヴェルディ 29 歳（1842 年）の時に初演され、出世作となった。この「行け、我が思いよ、金色の翼にのって」は、第 3 幕・ユーフラテスの岸辺の場面で、鎖につながれ強制労働をさせられているユダヤの民によって歌われる合唱曲である。捕われのユダヤの民が、祖国イスラエルとその都エルサレムに思いを馳せ、神への祈りが歌われる。

花の歌・何を恐れることがありましょう（歌劇「カルメン」より）・・・・・・ビゼー
『カルメン』の原作はプロスペル・メリメの小説。ジョルジュ・ビゼー（1838―1875）は 1872 年、パリ・オペラ・コミック座から 3 幕のオペラを依頼され、オペラ化を決意。
時は 1820 年頃のスペイン、セビーリャの街とその近くが舞台。第 2 幕でホセが美しいジプシー女、カルメンに愛を語る**《花の歌》**。「お前のくれたこの花は、寝る時も抱いていた、萎れても、甘い香りに私は酔いしれた、望みは今一度お前に会いたかった、狂おしいほど愛しい」
《何を恐れることがありましょう》は第 3 幕で歌われるミカエラのアリア。「何で恐れることがありましょう。強がってもだめ、ここは死ぬほど怖い、でも勇気を出すわ、ああ神様ご加護を。あの人を自堕落にしたあの女に会える、そしていってやるわ･･･」と、勇気を振り絞り、母の危篤を知らせようと歌う。

歌劇「電話」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・メノッティ
1947 年ニューヨーク初演のオリジナルでは、舞台はごく普通のアメリカのアパート。ルーシーの部屋に、ボーイフレンドのベンが訪ねてくるという設定だが、常に現代に通じるオペラを希望していた作曲者は舞台設定を世界各国の上演に合わせて変更してよいとの但し書きがある。そこで今回の舞台設定は、歌手ルーシーの楽屋に訪れるサラリーマンのベンとした。ベンはあと 1 時間で旅に出なければならない。歌手ルーシーは友人との長電話に忙しく･･･、さて”The Telephone. or L‘Amour à trios”（電話 または三角関係）、どんな展開となるか･･･。

Message

ドイツ国際平和村より

親愛なる恵美さんとその仲間の皆さん、そしてご来場の皆様、

再び平和村の子どもたちのためにチャリティー・コンサートが開かれることは、なんと喜ばしいことでしょうか。
第５回目のコンサートである本日が素敵な晩となることでしょう。どうか音楽を楽しんでください。そしてそれが素晴らしいことであると感じてください。
もうしばらくすると、７月６日に平和村は４０周年を迎えます。しかしそれは喜ばしい日ではありません。平和村が役目を終えても良いときこそ、祝うことが出来るでしょう。いずれにせよ７月６日は記念日となります。思い出されるのは、実にさまざまな戦争が行われている地域や、危険地帯からきた多くの子ども達のことです。私達は彼らを助けることが出来ました。同時に、どんな助けも手遅れだった子ども達のことを悼まなければなりません。
２００７年は私達にとって大変不安な年となります。津波被害と私達の国での社会的な変化があって以来、平和村への寄付金は著しく減少しています。それだけ一層、日本の多くの人々と平和村との強い結びつきを大変うれしく思います。私達は自らを“国際平和村”と呼びますが、それは以下の事実と関わり合いがあるからです。平和村では子ども達を助けるための計画を立て、それによって世界中で活動しているということです。
“国際平和村”という考えは新たな意義を持ちます。なぜなら、そうこうしているうちに私達の組織がドイツ、日本間に限られるということが確かに言えるからです。私達はひとつの大きなゴールに向かって共に活動しています。出来るだけ多くの子ども達の健康と人生を取り戻すだけでなく、平和村の子ども達が平和の使者として故郷へ戻ることをも果たしたいのです。それによってひょっとしたら、将来は世界がほんの少し今より平和になるかもしれません。
私達の未来は子ども達の手の中にあります。それは、ドイツと日本の子ども達だけでなく、世界中の子ども達の手に託されているのです。
心からのご挨拶と御礼を皆様へ・・・。

ヴォルフガング・メルテンス

FRIEDENSDORF INTERNATIONAL
Wolfgang Mertens

Message

(© T.Yamaguchi)

皆様、本日は御多忙の中を『ドイツ国際平和村』へのチャリティ・コンサートにご来場下さいまして誠に有難うございます。
～未来につづく子どもたちのために～と奮起してから 8 年、2 年に 1 度のライフワークのはずが、10 年を待たずして第 5 回目を迎えることが出来ました。
これは一筋の想いがあっても到底私一人では実現できない事でした。公演を５回も重ねて参ることができたのは、今までにご協力下さったキャストやスタッフを始め、多方面からのご尽力、ご賛同下さいました大勢のお客様のお陰です。私はこの感謝の言葉をどう表したら良いのかわかりません。本当に嬉しく、心から御礼申し上げます。
チャリティを始めた１９９９年頃はオタワ条約（対人地雷全面禁止条約）が発効され地雷撲滅キャンペーン等の真最中でした。それから８年経ち、3US ドルから造れてしまう地雷はまだ地球上に６千万個以上埋まっており、貯蔵に至っては約３億といわれています。
『ドイツ国際平和村』には、その地雷等の被害に苦しみ母国から治療の為とはいえ親から引き離される事を余儀なくされた子ども達が常時２００人ほど住んでいます。広報担当のヴォルフガングさんは、去年、施設から道路に出るまでの路を≪Hiroshima Str.(ヒロシマ通り)≫と名付けられました。ドイツ人であるヴォルフガングさんのこのメッセージは、今日の私達日本人にとって様々な思いを呼び覚ます事だと感じます・・・。
　過去２度『平和村』を訪問して子ども達や職員と接し、被害の変化や施設の様変わりを目にしても、子ども達がその小さな体の内に深い悲しみを抱え、「生きたい！」と叫ぶ魂を秘め訴えかけている事に変わりありません。あの子ども達の篤い眼差しを想う度、≪平和の尊さ≫を痛感し、未来につづく子ども達が安心感と希望を抱いて生きていける地球上を大人たちが創っていってやらなければ･･･と強く思います。これからも皆様と共に子ども達をささやかながらでも応援していきたいと思っております。
　最後に重ねて、心をお寄せ頂いきましたご来場の皆様に、心から厚く御礼申し上げます。

Program

[１部]

ｿﾌﾟﾗﾉ＆ﾋﾟｱﾉ・Soprano&Piano

中田喜直　　たんぽぽ
山田耕筰　　からたちの花
中田喜直　　悲しくなったときは
寺島尚彦　　さとうきび畑

合唱・Chor

武満徹　死んだ男の残したものは

ヴェルディ “ 行け、我が思いよ、金色の翼にのって ”　（オペラ「ナブッコ」より）
Giuseppe.F.F.Verdi　“Va!pensiero,sull’ali dorate” from『Nabucco』

ﾃﾉｰﾙ＆ｿﾌﾟﾗﾉ＆ﾋﾟｱﾉ・Tenor&Soprano&Piano

ビゼー　　ホセのアリア　花の歌 ”　　　（オペラ「カルメン」より）
G.Bize　“ La fleur aue tu m’avais jetée”　from『Carmen』

ミカエラのアリア “ 何を恐れることがありましょう ”
“Je dis que rien ne m’épouvante”

[２部]

オペラ・Opera

メノッティ　「電話」
Gian Carlo Menotti　『The Telephone』

ｳﾞｧｲｵﾘﾝ＆ﾋﾟｱﾉ・Violin&Piano

ヴィエニアフスキ　華麗なるポロネーズ
Wieniawski　Polonaise Brillante No.4

ｿﾛ＆合唱・Solo&Chor

ヴェルディ　乾杯の歌 “ 陽気に楽しく杯をくみ交わそう ”（ オペラ『椿姫』より）
Giuseppe.F.F.Verdi　Brindisi　“Libiamo, libiamo ne’ lieti callici”　from『La Trviata』